

令和8年度重点プロジェクト事業評価（令和7年度事業分）

No.18 健康寿命を延ばす介護予防・生活支援事業

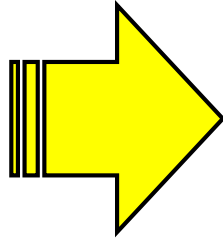
福祉部 高齢者施策推進室 高齢者はつらつ支援課
地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課

イキイキとした

はつらつな毎日を



身近な場所で
介護予防に取り組む
様々な機会を提供



**要介護認定を受ける
高齢者の減少※
（健康寿命の延伸）**

【成果指標】

70～80代の新規要支援・要介護認定者数の割合
【低減目標】

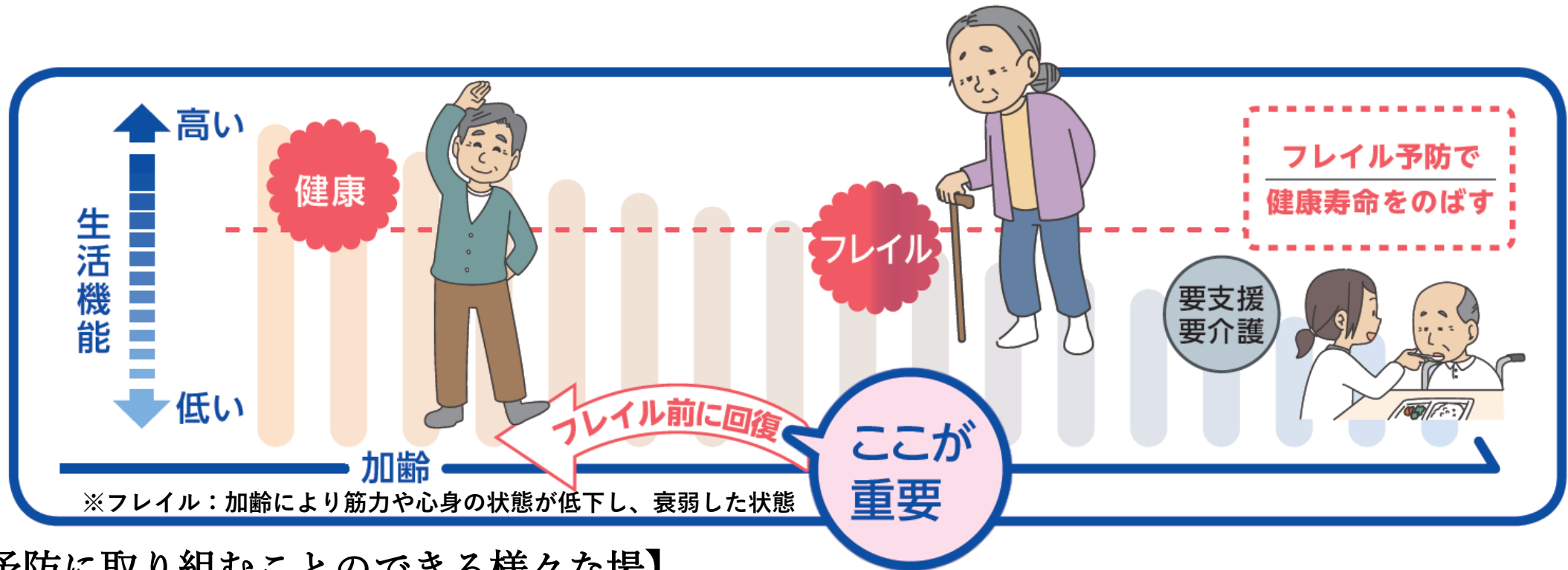
令和7年度目標

5.5%

結 果

6.0%

目的 最終成果 取組 今後の展望（新たな取組）



【介護予防に取り組むことのできる様々な場】

状態にあった
活動の場

自身の状態を
知る場

他者との
つながりの場

気づき・
実践の場

介護予防・認知症予防を
楽しくサポートします。

【活動-1】 【直接成果-1】 【中間成果-1・2】

あだち脳活ラボ



- 1  体操教室などの
イベントが
検索できる!
- 2  1,000を超える
脳トレ問題!
- 3  運動・美術・音楽など
400以上の動画!
- 4  13の質問に
答えるだけで
認知症リスクを
三段階で判定!

2026年3月
スタンプラリー
スタート

あだち脳活ラボ登録サポート会開催数

62回開催 【R7目標 60回】

65歳以上のあだち脳活ラボ登録者数

5,013人 【R7目標 3,500人】

目的 最終成果 取組② 今後の展望（新たな取組）

状態にあった
活動の場

【活動-2】 【直接成果-2】 【中間成果-1・3】

パークで筋トレ・ウォーキング教室

901回開催
延べ26,191人参加



パークで筋トレに参加して
良い変化があった方 81%

- ・ 疲れにくくなった
- ・ 転びづらくなった
- ・ 運動習慣がついた

ウォーキング教室

屋外で気軽に参加
元気でアクティブな方

正しい歩き方を習って、
普段の姿勢まで
良くなりました！



目的 最終成果 取組③ 今後の展望（新たな取組）

気づき・
実践の場

【活動-3】 【直接成果-3】 【中間成果-1・4】



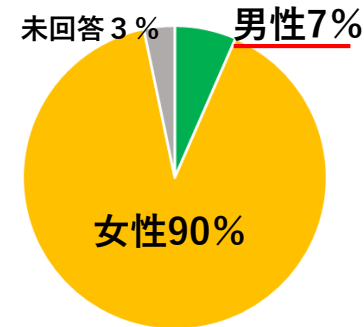
食べてフレイル予防 「ぱく増し栄養講座」

82回開催
2,289人参加
(1講座: 28人)

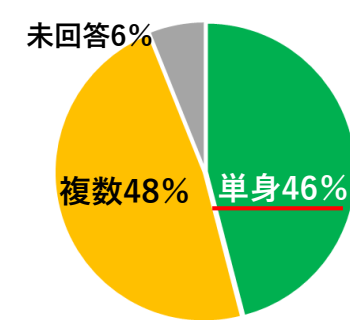


参加者の内訳

性別



世帯別



- ① **男性**の参加者が少ない
- ② 約半数が**単身者**

写真



講座の様子

実演レシピを作ってみたい
目標90% ⇒ **実績86%**



今後に向けて

- ① **男性**の参加を促す工夫
- ② **1人分**が無駄なく手軽にできるレシピの提案
⇒ 参加者にアンケート調査し、レシピに反映



参加者が調理実演
(缶詰・レトルト食品・冷凍食品を使用し、
手軽に**ぱく増し**)

目的 最終成果 取組④ 今後の展望（新たな取組）

【活動-4】 【直接成果-4】 【中間成果-1・2・5】

はじめてのフレイル予防教室

60回開催
589人参加



短期集中型教室
フレイルリスクの高い方

他者との
つながりの場

状態にあった
活動の場

フレイル予防が重要！

【介護予防チェックリストの回答状況】

年度	チェックリスト調査 対象者数(人)	チェックリスト 回答者数(人)	フレイル 予備軍(人)	フレイル予備 軍割合(%)
R 4	40,960	24,917	6,326	25.4
R 5	42,948	24,287	6,077	25.0
R 6	45,003	23,268	6,129	26.3
R 7	43,968	22,510	6,837	30.4

プログラム例

※令和8年度

- 1日目・・・体力測定
- 2～4日目・・・筋力アップ
- 5日目・・・お口の健康
- 6日目・・・栄養改善
- 7日目・・・認知症予防
- 8日目・・・筋力アップ
- 9日目・・・体力測定
- 10日目・・・修了式

はじめてのフレイル予防教室

【中間成果-1】

- 1 はつらつ測定会参加者※のうち、体力が同年代の平均以上または維持できている人の割合

※令和7年度 延べ1,791人

69% 【R7目標 70%】

【中間成果-2】

- 2 はつらつ測定会参加者のうち、認知機能低下の疑い判定が出なかった人の割合

98.8% 【R7目標 90%】

【中間成果-5】

- 3 はじめてのフレイル予防教室で「身のこなし測定」の数値が向上した人の割合

73% 【R7目標 65%】

他者との
つながりの場

状態にあった
活動の場

目的 最終成果 取組④ 今後の展望 (新たな取組)

1 あだち脳活ラボを活用し民間施設や他部署等と連携

(1) 区内23か所銭湯にあだち脳活ラボのポップ(※1)を設置 **実施済**

(2) プール施設、すこやかプラザあだち、住区センター等にあだち脳活ラボのポップを設置 **実施済**

(3) 衛生部の食育月間企画(※2)と連携し、協力店舗にあだち脳活ラボのポップを設置 **実施済**

2 デジタル化によるデータ管理・データ分析を実施

(1) 長期的な展望として、事業参加者の日々の活動状況や測定結果等の情報を蓄積・見える化し、事業の効果検証や事業展開に活用していく。

(2) 「いつでも、どこでも、誰とでも、お一人でも、何回でも」介護予防・認知症予防をより多くの方に実践していただくために、引き続きイベント等でPRし、登録者数を増やすよう努める。



※1 「脳活ラボのポップ」
二次元コードをスマホで読み取るとポイント付与



※2 「食育月間リーフレット」



令和8年度重点プロジェクト事業評価（令和7年度事業分）

No.18 健康寿命を延ばす介護予防・生活支援事業

福祉部 高齢者施策推進室 高齢者はつらつ支援課
地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課

ご清聴いただき、ありがとうございました。

An aerial photograph of a city, likely Tokyo, featuring a wide river, a multi-lane bridge with traffic, a baseball field, and a dense urban skyline with the Tokyo Skytree visible in the distance. The text is overlaid on the left side of the image.

No.19 エネルギー対策の推進 (温室効果ガス排出削減)

- 1 | 区の活動と成果
- 2 | 令和7年度の主な取組
- 3 | 分析から見えた課題
- 4 | 今後の方向性

1 | 区の活動と成果

2 | 令和7年度の主な取組

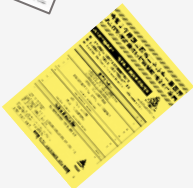
3 | 分析から見えた課題

4 | 今後の方向性

1 区の活動と成果



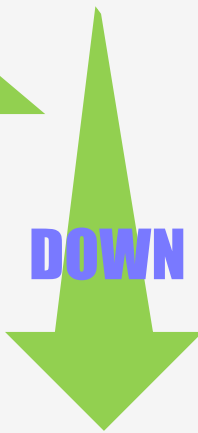
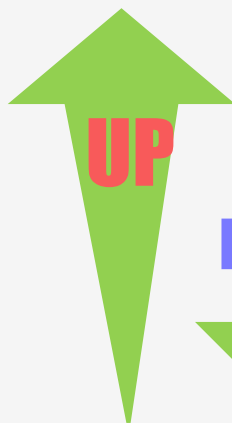
- ・ 省エネにつながる補助金のメニューの充実
- ・ 環境学習などの充実
- ・ CO2削減につながる積極的な情報発信 etc.



- ・ 太陽光や電気自動車などの機器の導入量が増える
- ・ 区民の省エネへの意識が高まる etc.



再生可能エネルギー



区内のエネルギー使用量

- ・ 再生可能エネルギーの導入量が増える
- ・ 区内のエネルギー使用量が削減される

区内家庭部門の世帯あたりの年間CO₂排出量の削減

区内家庭部門の世帯あたりの年間CO₂排出量

2.44 t-CO₂ → 1.95 t-CO₂

(令和5年度)

(令和10年度)



1 | 区の活動と成果

2 | 令和7年度の主な取組 >>>

3 | 分析から見えた課題

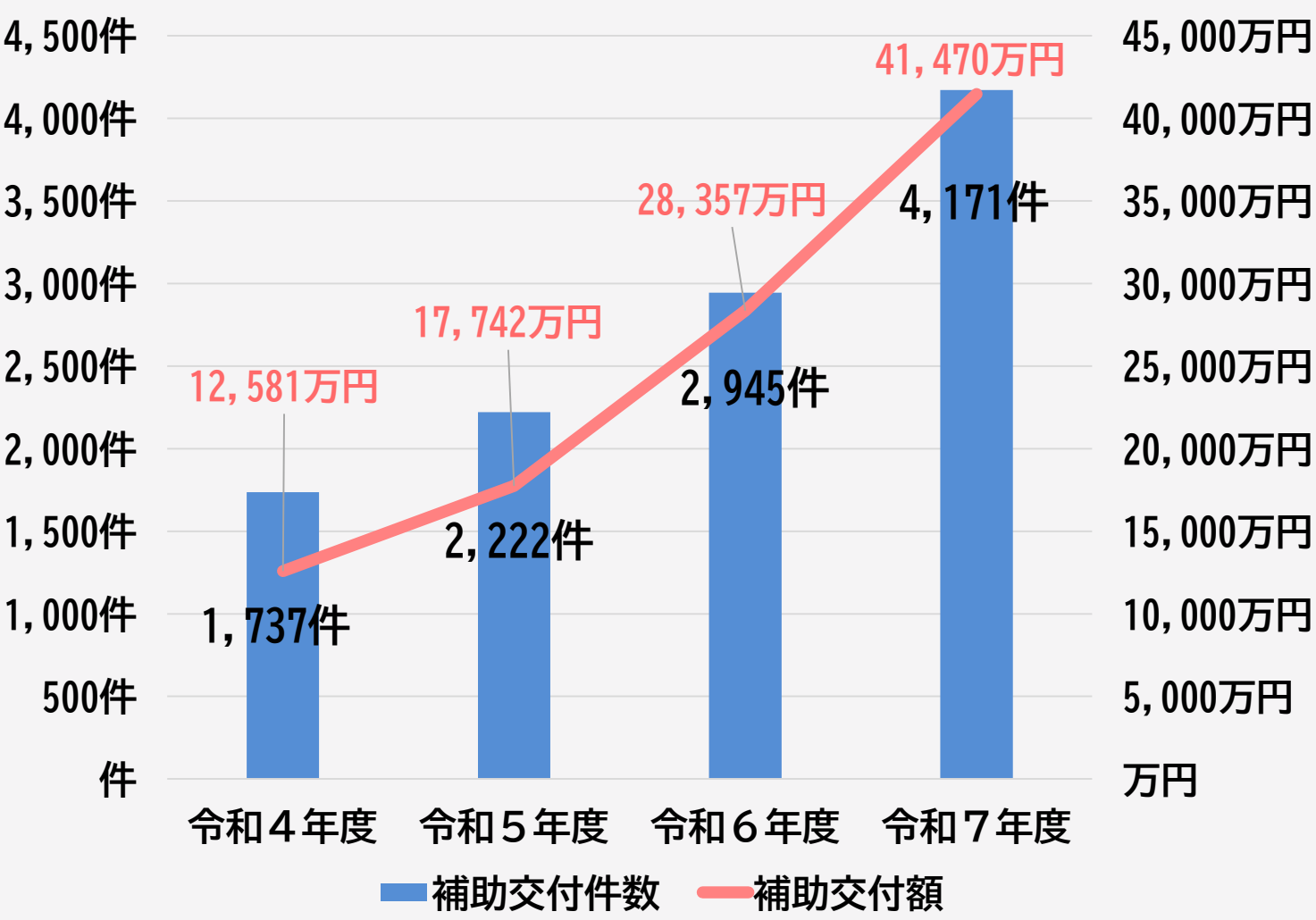
4 | 今後の方向性

①補助金の拡大

②イベントや講座
の充実

③区民や民間企業
との連携

補助金の交付件数及び交付額の推移



補助金事業は年々拡大

令和4年度と比較すると

補助件数は2.4倍

補助額は3.3倍

令和7年度までのCO₂削減量

推計6,572 t

(杉の木換算：約469万本分/年)

令和7年度の主な実施事業一覧

(参加人数順)

実施事業（イベント・講座）	実施月	回数	参加人数（延べ）
区民まつり（ブース出展）	10月	2回(2日)	8,517人
小・中学校環境学習出前講座	通年	139回	7,274人
千本桜まつり（ブース出展）	3月	2回(2日)	5,627人
しょうぶまつり（ブース出展）	6月	2回(2日)	5,135人
環境情報プラザ講座	通年	119回	2,501人
あらかわ自然体験ウォークラリー	10月	1回	1,471人
あだち生きもの図鑑をつくろう	4～5月、9～10月	2回	1,297人
一般向け環境講座	通年	14回	432人
あだち環境かるた大会	1月	1回	194人
環境学習ツアー（山ノ内町、鹿沼市）	8月、11月	2回	79人
あだち環境ゼミナール	通年	5回	13人
合計		289回	32,540人

イベントでの周知啓発

イベントでのブース出展やかるた大会など、環境に関心が薄かった区民に、環境に関心を持ってもらうきっかけをつくる。



イベントブースでの連携

- ✓野鳥モニターによる写真の展示や解説
- ✓環境マイスターによる環境問題の啓発
- ✓環境基金助成に採択された団体のブース出展 etc.

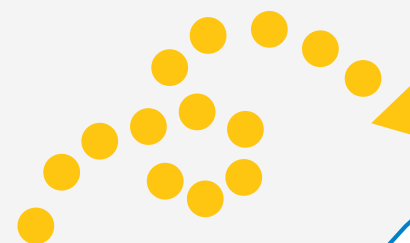
再エネ100電力普及のための事業者懇談会

区が協定を結んでいる(株)エナードが実施している再エネオークションにて再エネ電力に切り替えた事業者と区との懇談会

環境基金助成に関する大学での啓発

若者の環境に関する活動をターゲットとした「eco U-30（エコアンダーサーティ）」の申請件数を増やすため、区内の各大学と連携した周知啓発

第四次足立区環境基本計画策定におけるあだち若者会議の実施



区作成の事業者への
PRロゴ

1 | 区の活動と成果

2 | 令和7年度の主な取組

3 | 分析から見えた課題



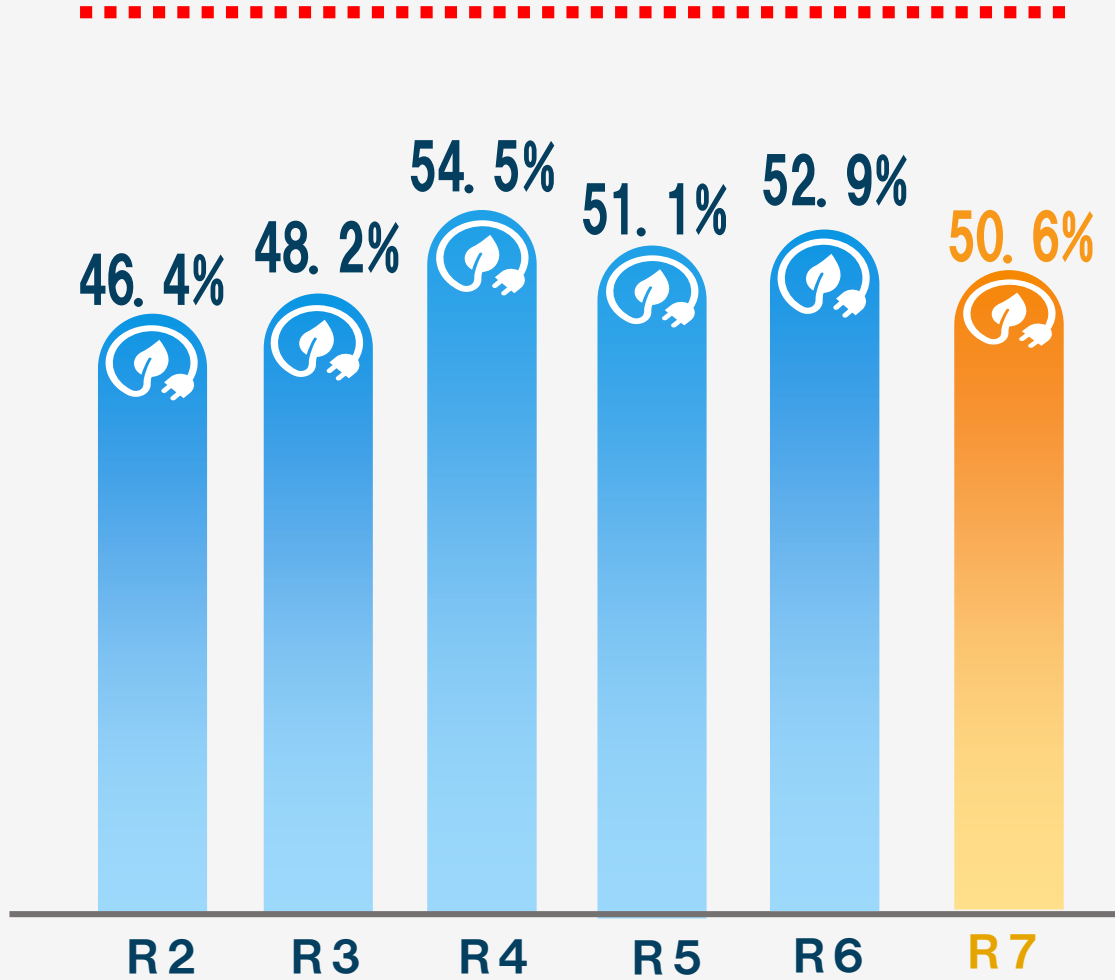
①区民の意識・行動
変容につなげる取組

②区内のエネルギー
使用量の削減促進

4 | 今後の方向性

省エネルギーを心がけている区民の割合

目標水準 70%以上



令和6年度より **2.3ポイント**減少

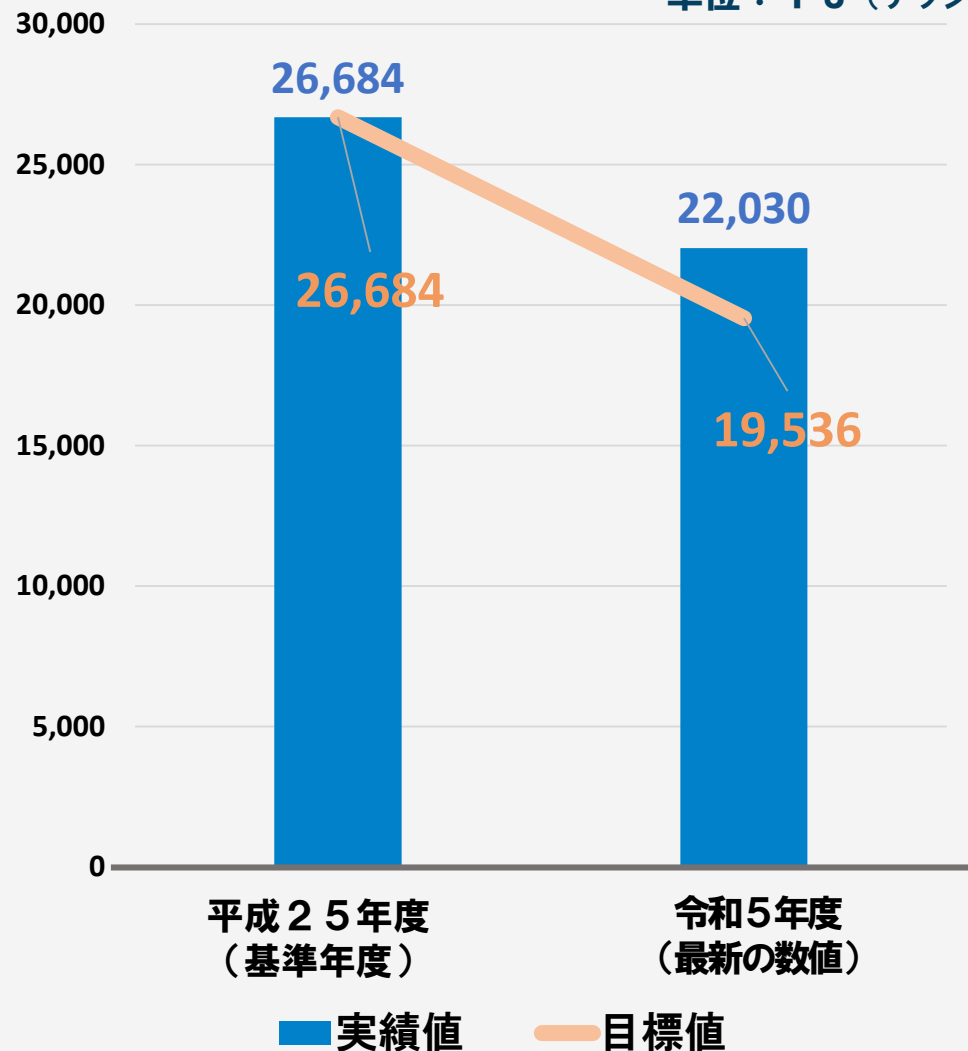
補助事業の拡大、積極的な情報発信、イベントや講座での普及啓発活動を行っているものの世論調査の結果に変動なし・・・



50%前後で変化がないなあ・・・

区内の年間のエネルギー使用量

単位：T J（テラジュール）

基準年から **4, 6 5 4 T J**

の削減だが、

目標値に **約 2, 5 0 0 T J**

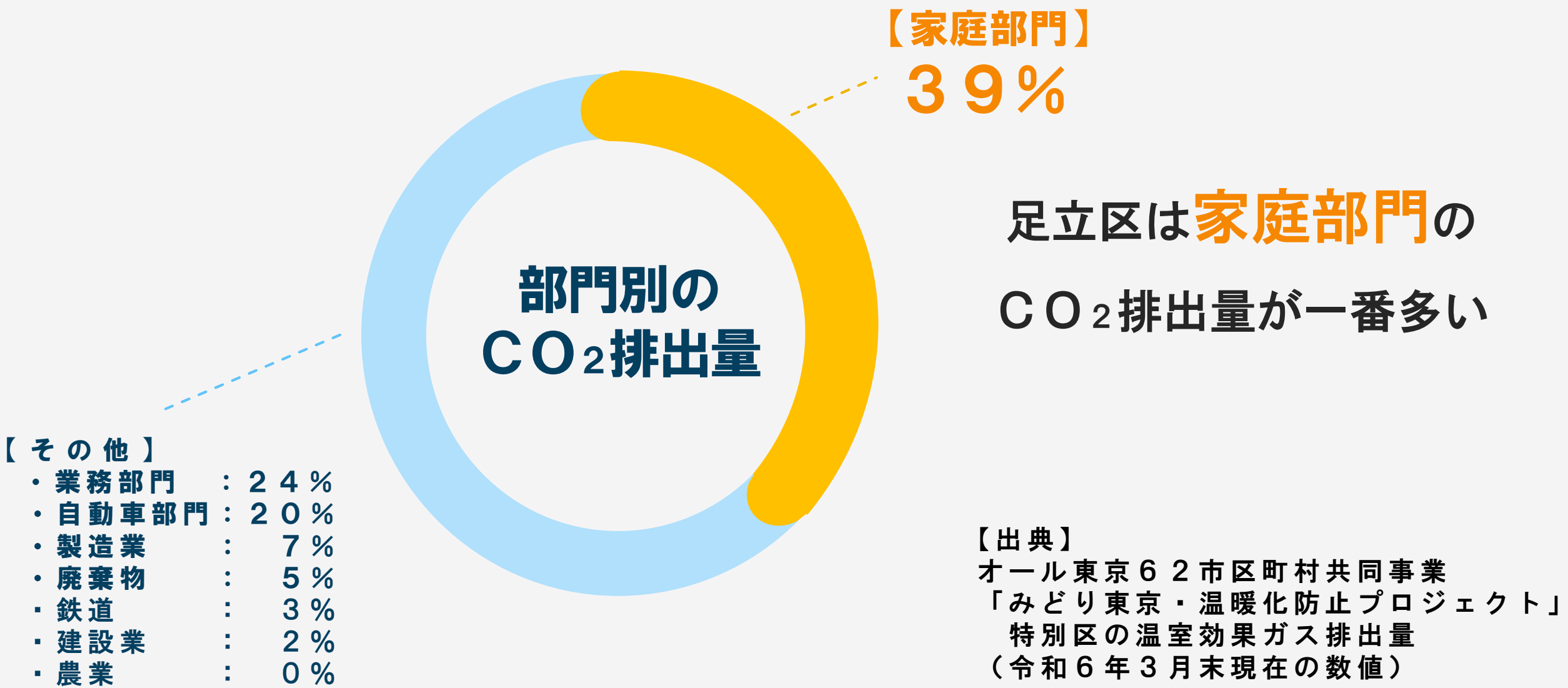
届かず…

引き続き省エネ等の普及啓発が必要！！

【出典】

オール東京62市区町村共同事業
「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」
特別区の温室効果ガス排出量
(令和6年3月末現在の数値)

足立区の部門別CO₂排出割合



1 | 区の活動と成果

2 | 令和7年度の主な取組

3 | 分析から見えた課題

4 | 今後の方向性

【短期】

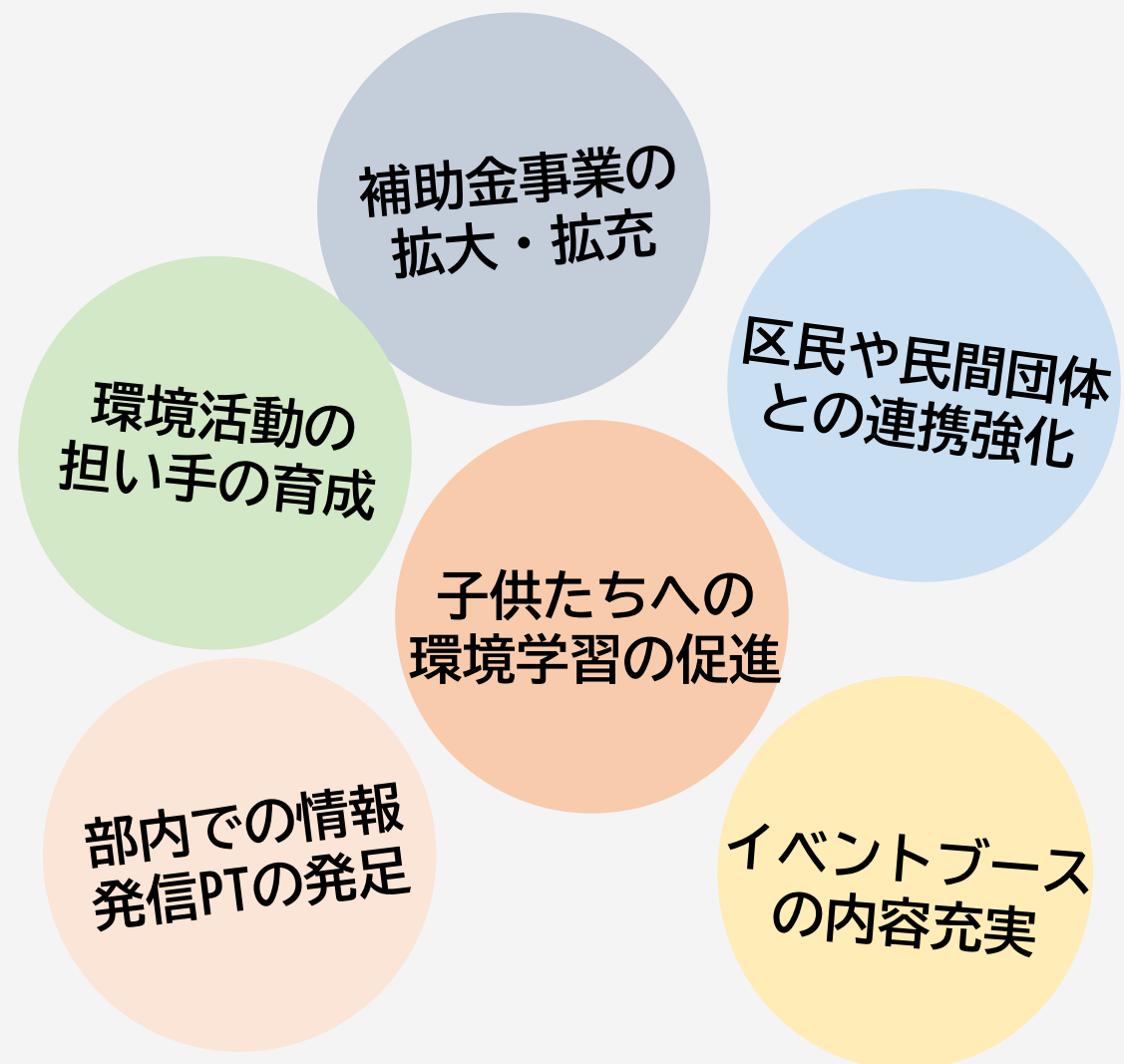
- ①区民等の環境意識の向上につながる事業展開
- ②庁内のCO₂排出削減に寄与する事業展開



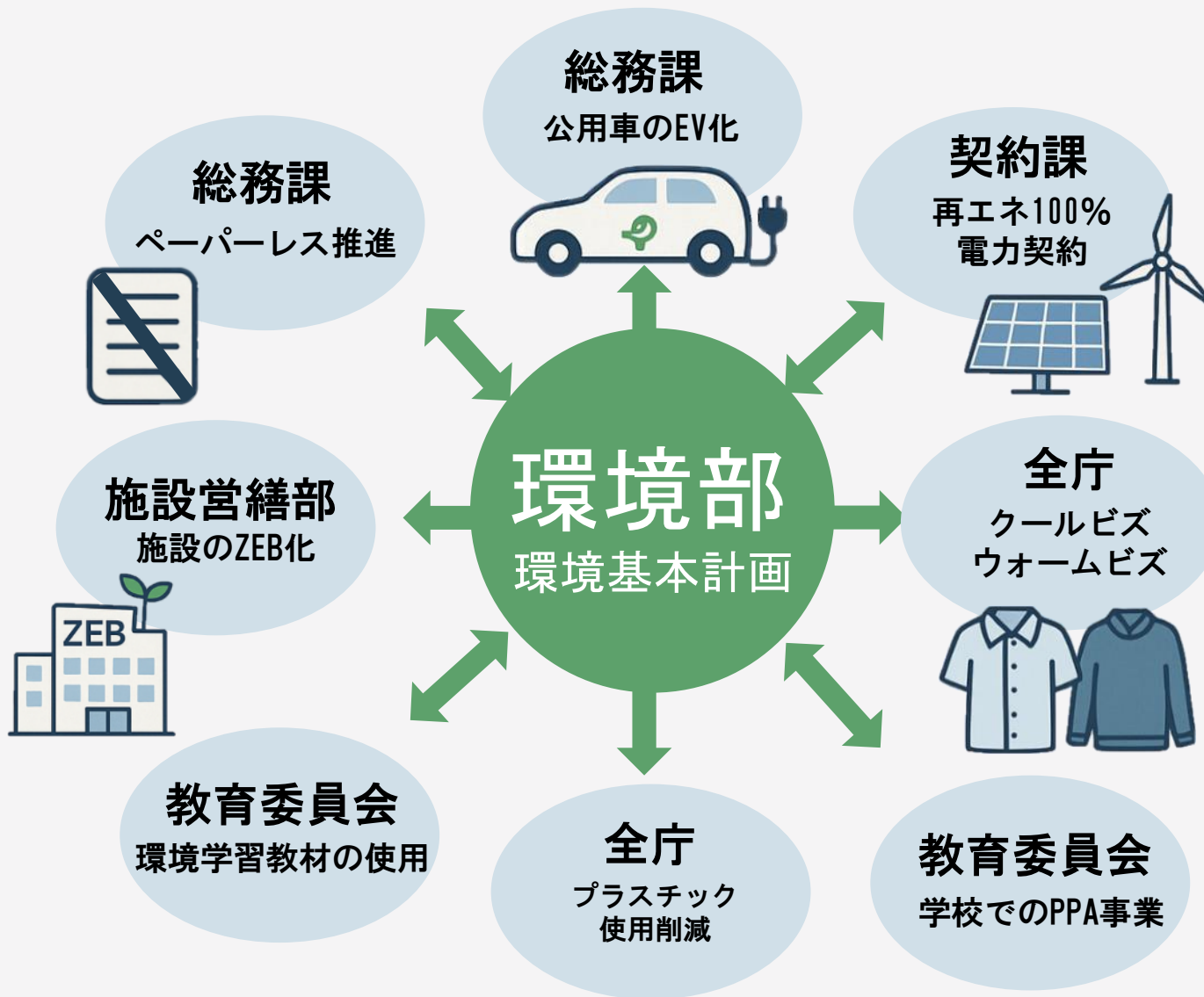
【中・長期】

ウェルビーイングの視点を盛り込んだ
第四次足立区環境基本計画の改定

環境意識の向上につながる取組



脱炭素化における区役所内の連携



令和8年度出前講座の新メニュー “届けよう、服のチカラ” プロジェクト

株式会社ファーストリテイリング（ユニクロ・ジーユー）が取り組む、小・中・高対象の参加型学習プログラムです。

社員による出張授業を受けたのち、子どもたちが主体となって、校内や地域で着なくなった子ども服を回収します。

回収した服は、難民などの服を必要とする人々に届けられます。

足立区では
19校
の応募あり



©ユニクロ

1 授業による学び
（6月～7月）



©ユニクロ

2 校内・地域へ呼びかけ
（授業実施後）



©ユニクロ

3 服を回収し発送
（11月まで）

活動の呼び水・きっかけづくり

環境の取組はときに「我慢」や「不便」を感じてしまう場面も…

区では「健康」「楽しさ」「学び」「ちょっとお得」
など「+αの効果」が得られる啓発、支援策を展開。



- ★ 子どもたちの未来につながる活動であることを実感
- ★ 環境保全への貢献で得られる充実感・達成感
- ★ 同じ目的を持った仲間とのつながり



これらを感じることで…

環境の視点から「ウェルビーイング」を実現

区の基本計画も
ウェルビーイング
(幸福感)の理念を
取り入れているよ！



第四次足立区環境基本計画策定の工夫

- ① 区民、事業者、区それぞれの行動指針を記載
- ② イラスト入りで分かりやすさを意識
- ③ 「すぐに実践できる」ことを重視し、取組みやすいものから順に表示 などなど



完成後には啓発用として、各世帯や対象に読んでもらいやすいような概要版などの作成も検討中！

ご清聴ありがとうございました



令和8年度
重点プロジェクト事業評価調書（令和7年度事業分）
環境部足立清掃事務所・ごみ減量推進課

NO. 20

ごみの減量 ・資源化の推進



あと **50** 年しか・・・

私たちが出すごみは

どこで処分される？

いつまで処分できる？



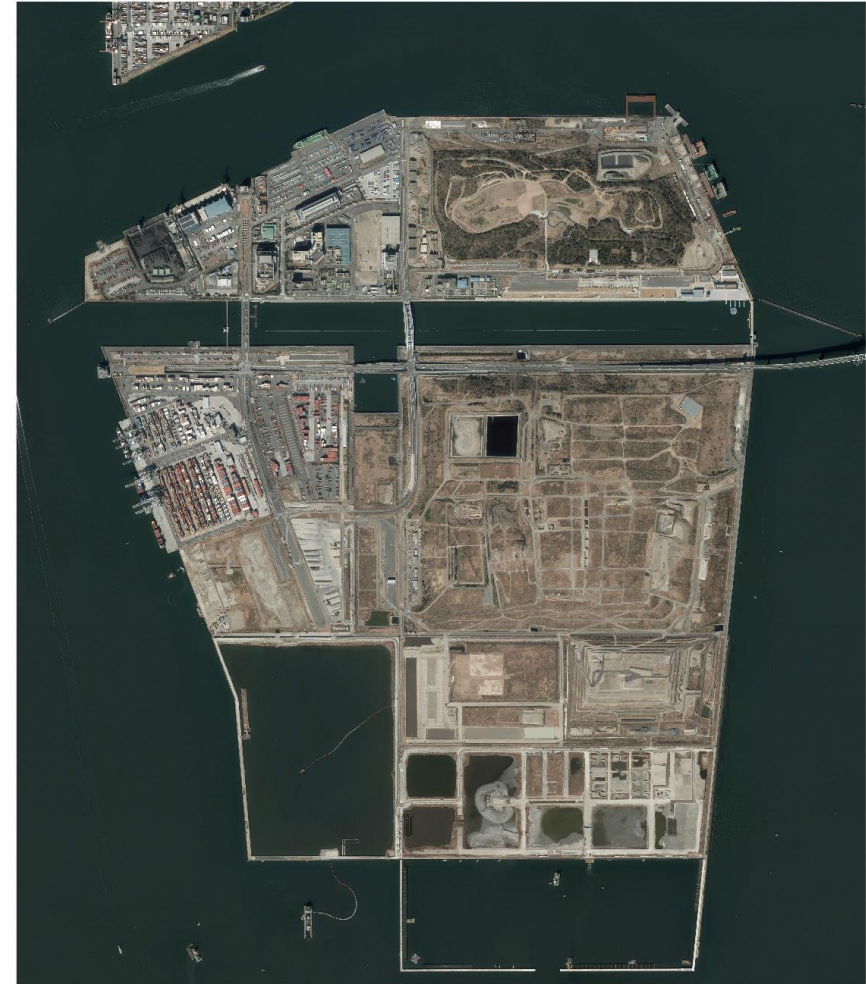
私たちのごみの行方は

中央防波堤埋立処分場（東京湾）
で処分されます

残りは **50** 年です。

あと **50** 年**も** 残されている？

あと **50** 年**しか**
残されていません



令和7年 空から見た中央防波堤埋立処分場（航空写真）
出展：東京都環境局ホームページ掲載画像

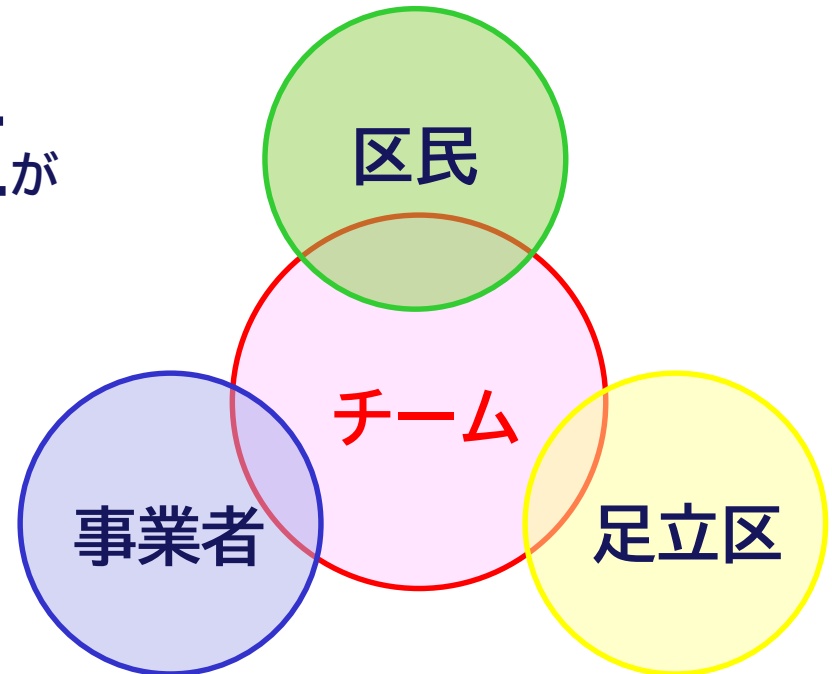
大量消費・大量廃棄 の生活を見直す

減らす・捨てずに使う・資源として生かす
(Reduce) (Reuse) (Recycle)

区民・事業者・足立区が

チームで一体的に取り組み、

解決する。



家庭ごみ減量の大きな課題

食品ロス

年間 **3,300** トン が
食品廃棄 されている

家庭ごみ量(燃やすごみ)全体114,184トン
(区民1人あたり約**5** kg、お茶碗**31** 杯分)

区の実施



家庭の食品ロス削減策

フードドライブ

エコな料理教室

生ごみ減量

廃食油の回収



フードドライブ【活動-2】【直接成果-4】

区の常設窓口(5カ所)

	令和7年度
個 数	3,375品
重 さ	696kg



▲【ファミマフードドライブ 寄付受付BOX】

R7提言を受けての改善点

指摘内容

「未利用食品を減らし、食品ロス削減をさらに推進すること」

改善

家庭ごみにおける未利用食品の割合 **達成率 131%**
(※低減目標)【直接成果-4】

6年度:4.1% → 7年度:2.9%

取組みの工夫

区内のフードドライブの窓口情報を一元化

足立区

ヨーカ堂

ファミマ

コーポ花畑

足立
成和信金

足立区
一元化



エコな料理教室【直接成果-4】

R7
新規

取組

- ① エコな調理法・余りやすい食材の活用術を提供
- ② 親子で楽しく食育と食品ロス削減の意識を向上
- ③ 地域学習センター実施の料理教室と連携

活動成果

家庭ごみにおける未利用食品の割合
(※低減目標)【直接成果-4】

達成率
131%

6年度:4.1% → 7年度:2.9%

※写真はイメージです

おいしくエコに
親子でクッキング

「もったいない」を減らそう!

親子料理教室で ブックトーク

5歳~小学生と
保護者 10/5 日 午前10:30~午後0:30

10月は食品ロス削減月間!
ご家庭で余らせがちな缶詰などの保存食品を使って、簡単でおいしい料理を作りましょう。

今回のこんだて

- ・ 鯖缶を使った サバサンド
- ・ レトルトソースを使った ポトフ
- ・ 備蓄ビニールを使った チョコクランチ

場所 花畑地域学習センター 2階 料理室
料金 1組あたり2,100円(材料費1,000円込)
持ち物 三角巾(バンダナ)、エプロン、タオル
申込 8/26(火)から受付開始 定員 8組

お申込み・お問い合わせ

花畑地域学習センター
☎ 03-3850-2618 FAX 03-3850-2623
指定管理者/ TM・アズビル共同事業体

WEB申込みはこちら

令和7年度 足立区・花畑地域学習センター共催事業

▲【令和7年度花畑地域学習センター開催】



生ごみの減量【活動-3】【直接成果-3】

背景

①プラスチック分別回収に伴う燃やすごみ収集回収日の

減少

②(可燃ごみ)生ごみの割合は約3割で、その8割は

水分

① 生ごみ処理機購入費補助金

② 区イベントでの周知啓発

減らませんか？

生ごみの量と臭い

生ごみ処理機 購入費補助金 **最大 3万円**

量・重さ 約70%減
臭い・コバも 軽減！

Before 4hour After

区全域でプラスチック分別回収が始まりました！ごみの減量にご協力ください

まずは お問い合わせください

- 申請受付期間は、令和8年4月1日～令和9年3月15日です。
- 補助金額は本体価格（税抜）の3分の2です（上限3万円）。
- 購入後に申請が必要です。 ※先着順 予算がなくなり次第終了
- 一部、補助対象外の機種がございます。詳しくは足立区のホームページをご覧ください。お問い合わせください。

【お問合せ】ごみ減量推進課 資源化推進係(南館11階) TEL. 03-3880-5027

補助件数実績

申請件数	申請件数
6年度	233件
7年度	925件

過去最高ペース

【8年度実績】

260件(5月末時点)
年間 1,800件想定



体験型PRの実施

反応・反響
「生ごみがこんなにカラカラに小さくなるとは驚いた。」

「いやな臭いが全くせず、衛生的。」

「補助金があるので購入を考えたい。」



7年度ごみ削減効果 50トン (対6年度比 +398%)



使用済み廃食油の回収【直接成果-3】

背景

燃やすごみで廃棄されやすい廃食油は実は**資源**になる！

サフ

次世代の航空燃料（SAF）

CO2 80%減
従来の燃料と比べ

本日!

使用済みの
食用油
回収中!

足立区

①区施設で回収

●回収量

約2倍増

年度	回収量
6年度	1,244ℓ
7年度	2,321ℓ

増加中

●回収拠点の拡充

7年度実績

2 ⇒ **5か所**

②イベントでのアピール



▲【VR体験】



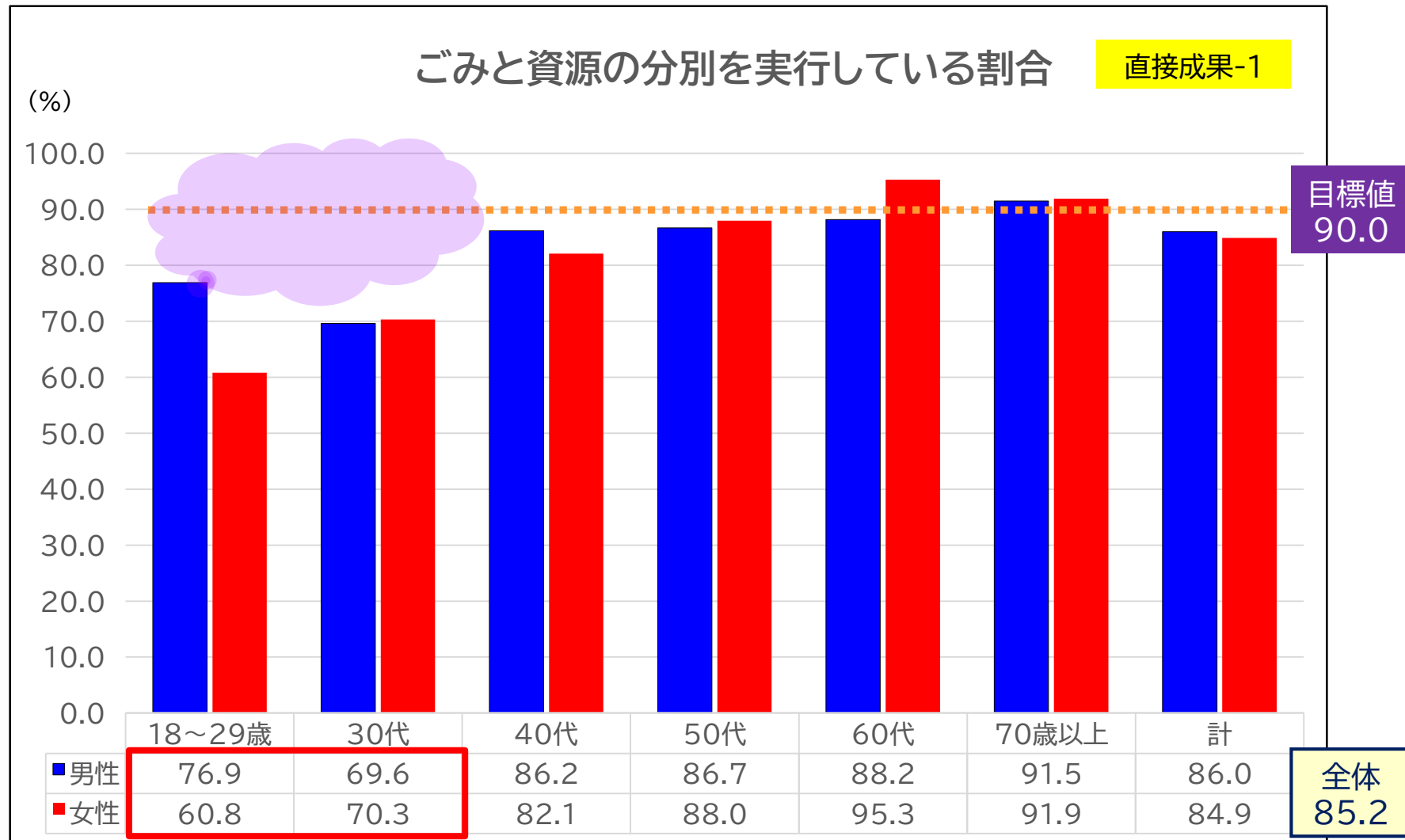
反応・反響

「飛行機が飛ぶのは
夢があるので、**回収**
に協力したい。」

お子様に
大好評



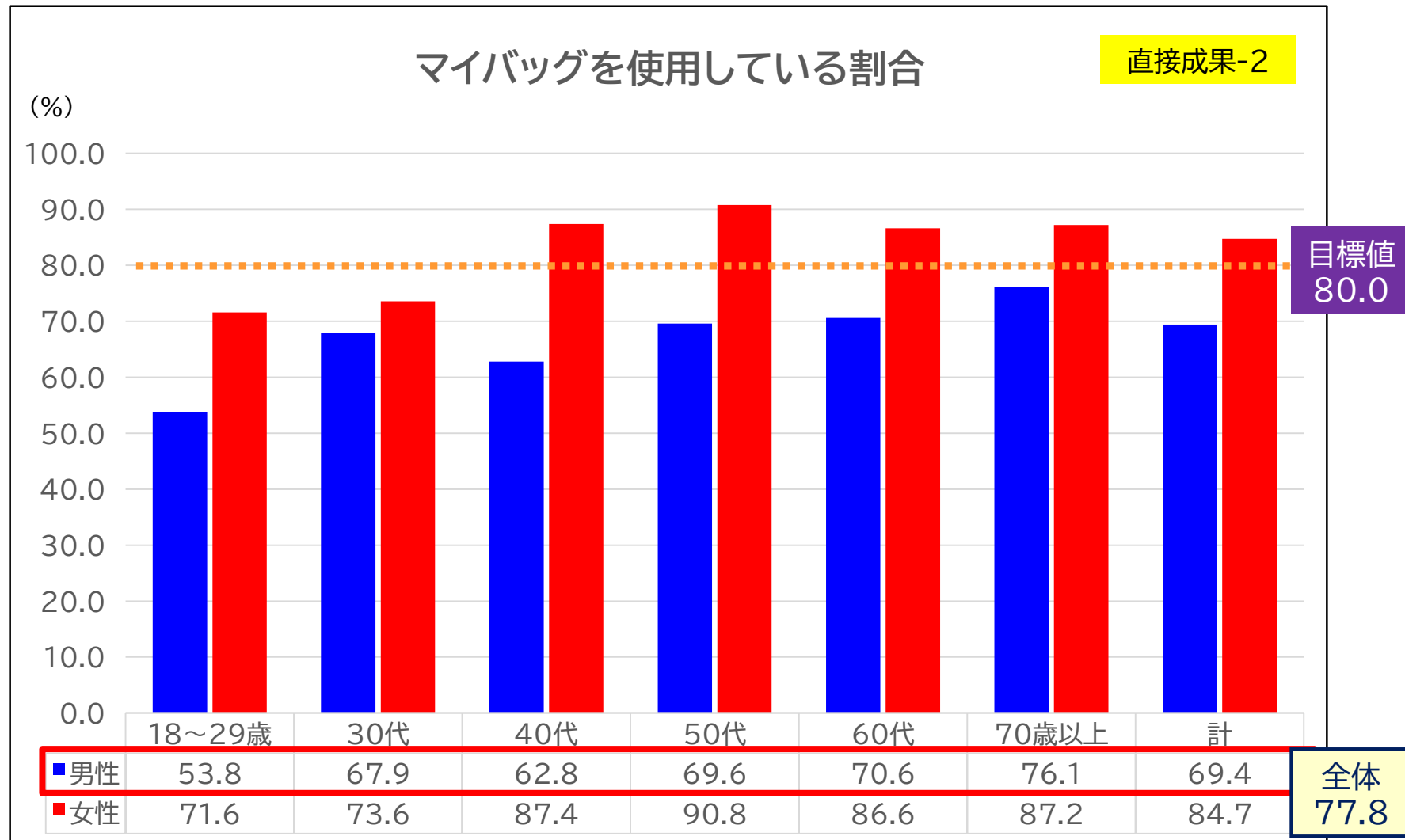
▲【巨大カプセルトイ】



傾向

18～29歳、30代が低い

➔ 若年層向けSNS等の情報発信



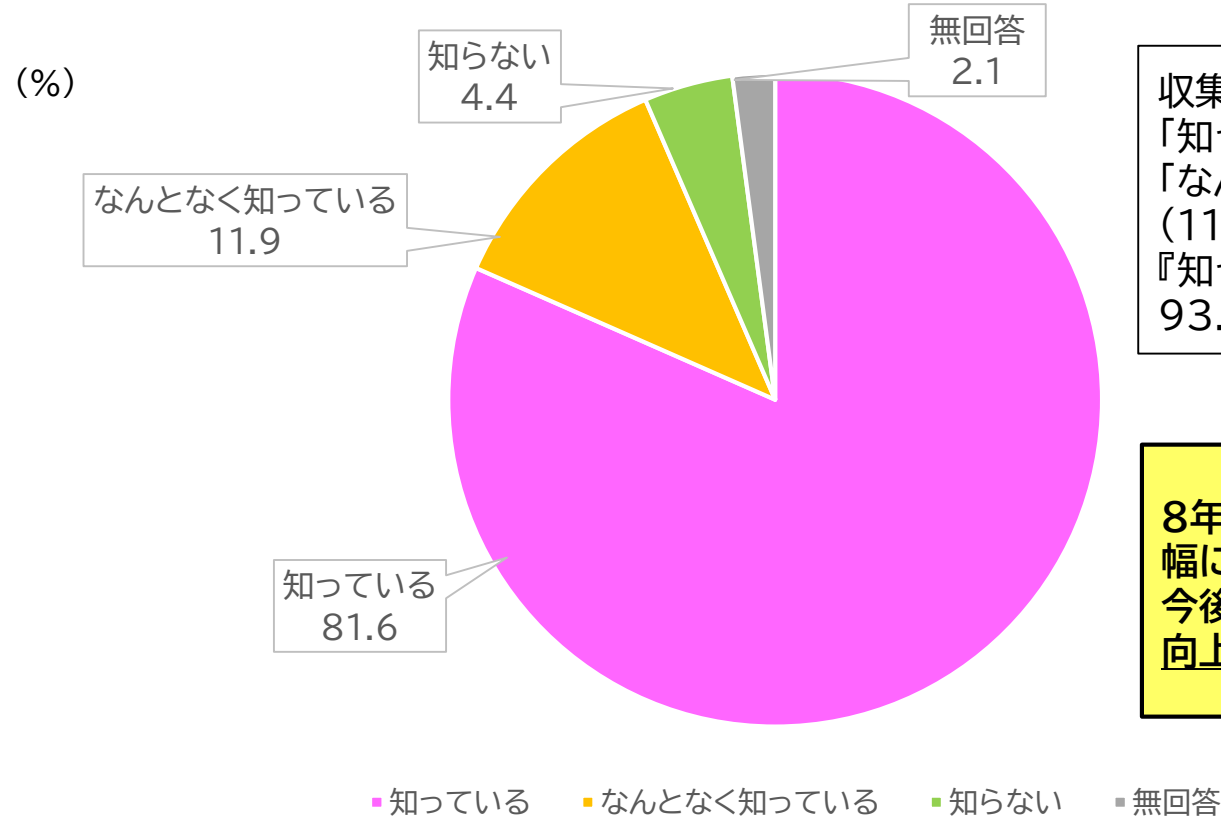
傾向

年代を問わず、男性が低い

→ 「不要なレジ袋を断る」啓発

居住地のごみと資源の収集日の認知状況

直接成果-5



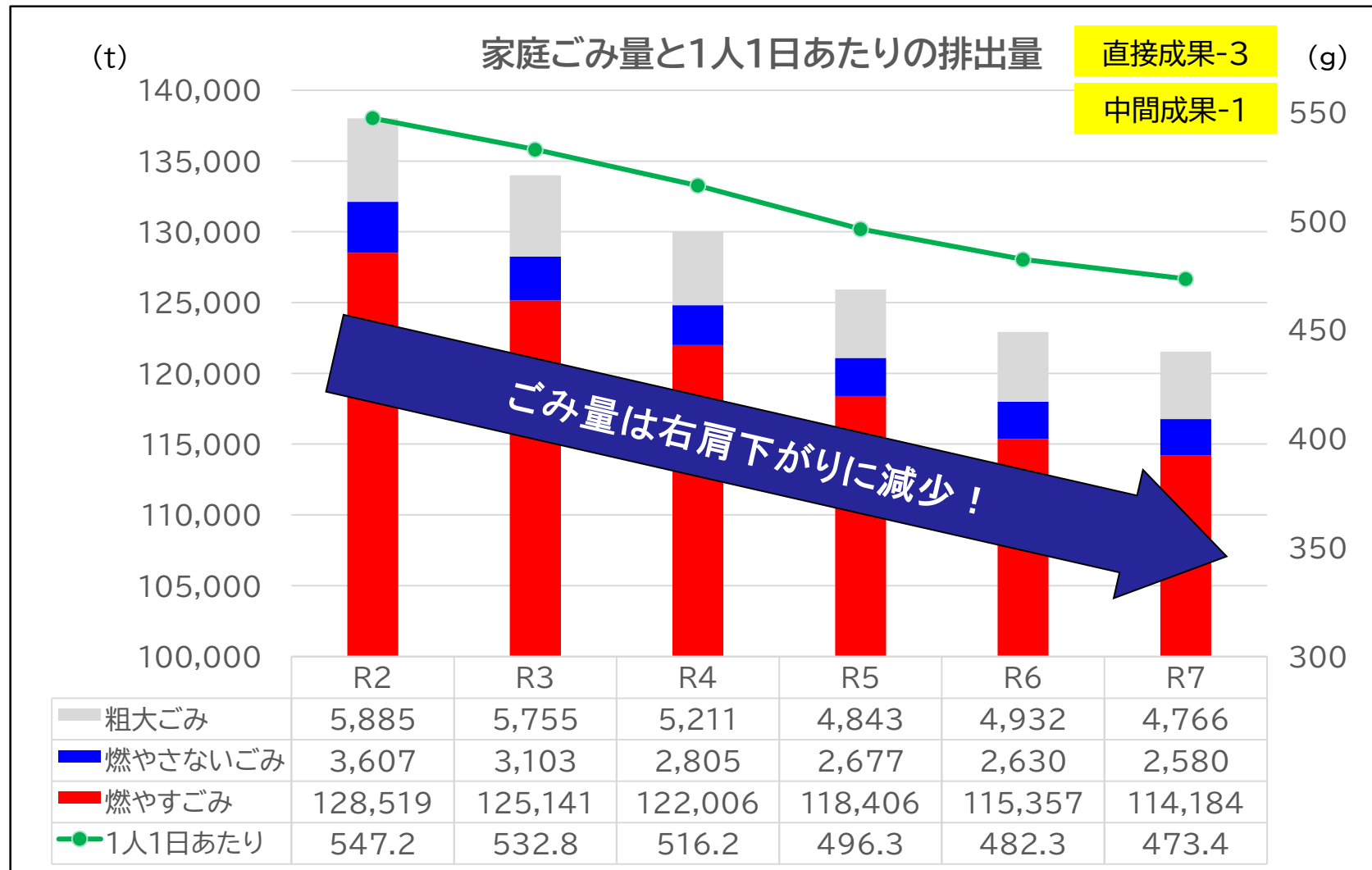
収集日の認知状況は、「知っている(81.6)」と「なんとなく知っている(11.9)」を合わせた『知っている』では93.5%となっている。

8年4月から収集日が大幅に変更になったため、今後、認知状況の維持・向上が重要となる。

今後

収集日の変更

➡ 紙媒体とデジタル媒体を併用した周知の強化



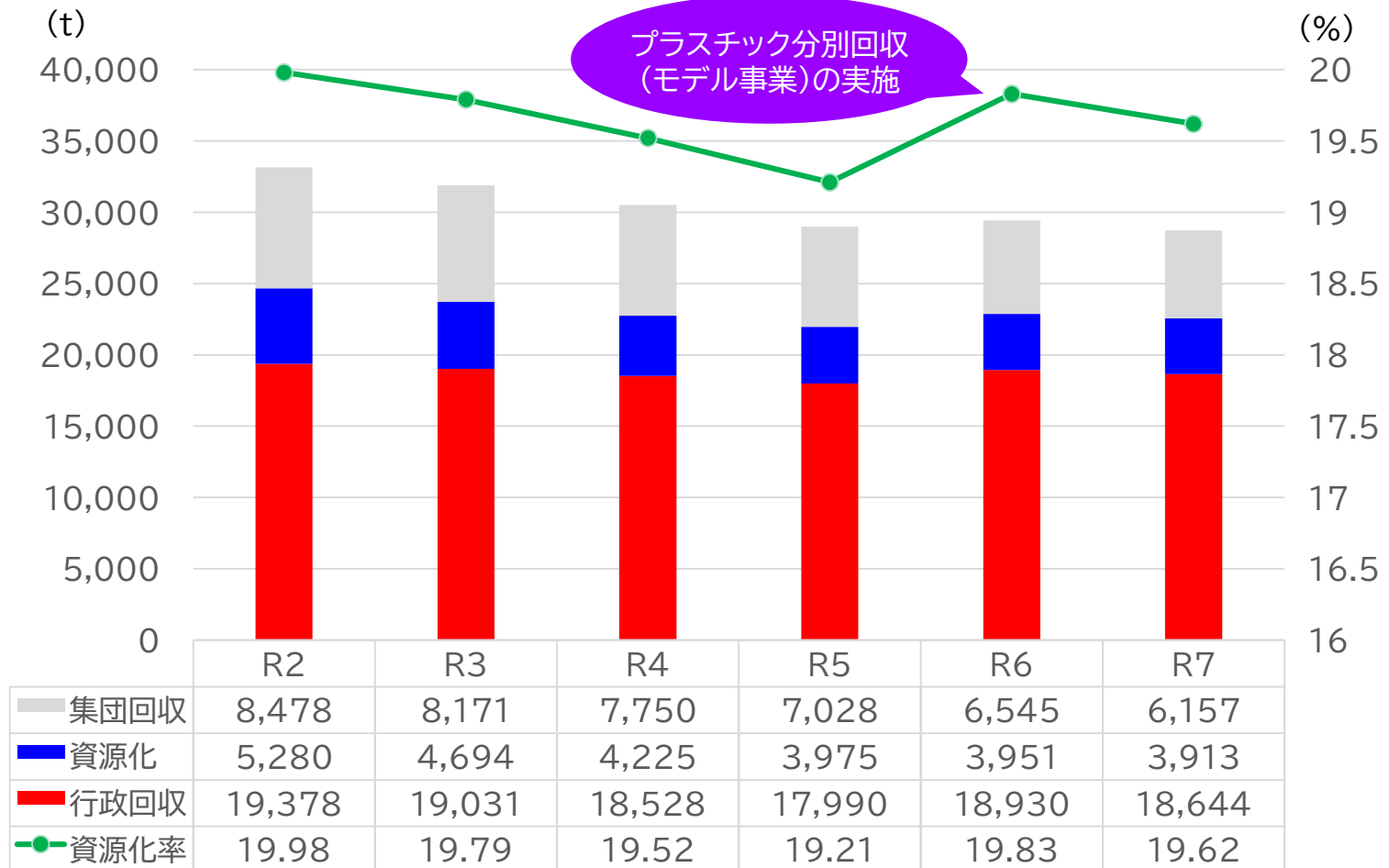
傾向

人口は増加、ごみの量は減少

➡ 「ごみの減量」情報発信

資源回収量と資源化率

中間成果-2



傾向

全体的な消費低迷により資源化率は減少

➡ プラスチック分別回収の実施

プラスチック分別回収の必要性

世界的な問題

環境問題

- 温暖化・気候変動
- 海洋プラスチック

国内の動向

法整備(プラ新法)

- 環境に配慮した製造設計
- 市区町村の分別回収

- 
- ☑ プラスチック生産量の抑制
 - ☑ リサイクルの推進、ごみの減量
 - ☑ 焼却量の減少、CO2の削減
(サーマルリサイクルからの転換)

プラスチック分別回収のながれ

① 分別排出

<区民>

プラスチック製容器包装

カップ、パック、ボトルなど
※  が目印



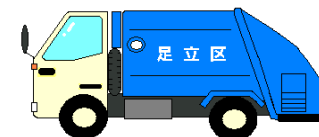
プラスチック製品

文房具、日用品など
※ すべてプラスチックでできているもの



② 回収

<収集運搬事業者>



週1回、集積所で回収します

③ 資源化

<中間処理事業者>



① 異物除去(選別)



② 圧縮・梱包
(バール化)

④ 再商品化

<再商品化事業者>

- 【R6】ケミカルリサイクル(ガス化)
- 【R7】マテリアルリサイクル(材料)
- 【R8】ケミカルリサイクル(ガス化、コークス原料化)
マテリアルリサイクル(材料)

※容器包装リサイクル協会の契約事業者が再商品化。



プラスチック分別回収(モデル事業)

令和6年4月より、千住地域、新田地域、小台・宮城地域でプラスチック分別回収のモデル事業を実施し、8年4月から区内全域で実施します。

【モデル事業】

年度	回収量	資源化量	資源化率	CO2削減量 ※
令和6年度	1149.54 t	1038.43 t	90.3 %	1526.49 t
令和7年度	1128.69 t	1002.60 t	88.8 %	1473.82 t

※ CO2削減量は、資源化量1tあたり1.47tで算出。

効果

CO2削減(2年間の合計)



<杉の木換算>
年間吸収量:平均14kg/本

課題と対策

①生ごみの臭い対策



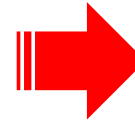
- (1)水切りの徹底、生ごみ処理機の活用
- (2)消臭・防臭剤などの使用
- (3)袋をしっかりと結ぶ、密閉構造容器

②プラスチックの保管対策



- (1)トレイ等の四隅に切れ込みを入れ平らにして重ねる
- (2)同じ形状の容器を重ねる

③風等による飛散対策



- (1)防鳥ネットの活用

プラスチック分別回収の区内全域実施

令和8年4月から区内全域で開始する「プラスチック分別回収」の周知活動に注力しました。

アナログ周知

紙媒体(チラシや広報、冊子等)の全戸配布による周知。

- ①周知チラシ(6月)
- ②周知チラシ(9月)
- ③あだち広報特集号(2月)
- ④資源とごみの分け方・出し方(3月)

(その他)ポスター、情報スタンド、教育だよりなど

デジタル周知

若年層などを対象に、SNSやHP等を活用した周知。

- ①PR動画の配信
- ②リポستキャンペーン
- ③デジタルサイネージ
- ④区HPバナー
- ⑤SNSやごみ分別アプリ



対面周知

イベントでの特設ブースの設置や、住民説明会の実施。

- ①しょうぶまつり(6月)
- ②A-Festa(10月)
- ③ぐるぐる博(月)
- ④千本桜まつり(3月)
- ⑤住民説明会(延べ 回)

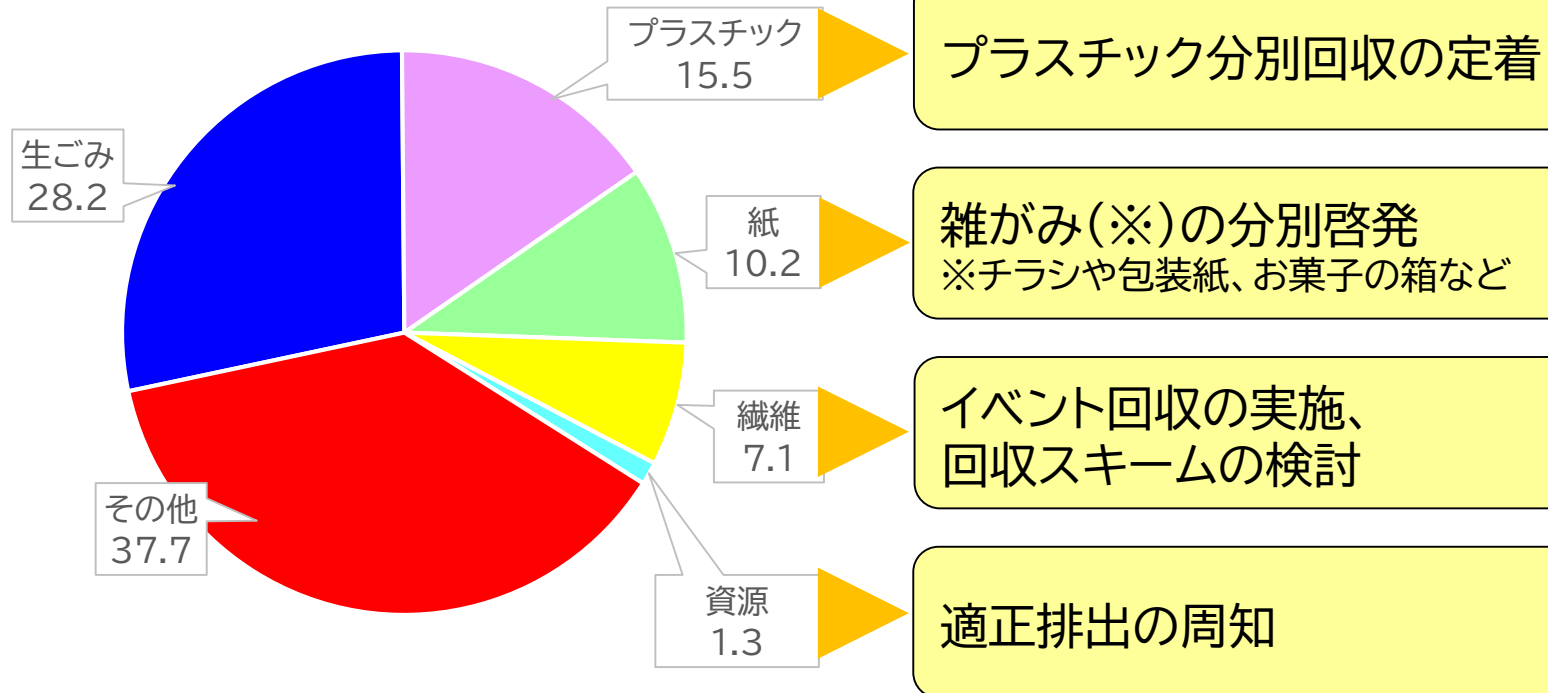
横断幕・懸垂幕の設置、など



「プラスチック分別回収」の定着 → 継続した周知

燃やすごみの組成調査

燃やすごみの組成(令和7年度調査)



※ 通常収集地区(モデル地区を除く)調査結果

組成調査の結果では、燃やすごみの中には多くの資源化可能物が含まれています。「プラスチック分別回収」の開始を契機として、情報発信を強化し、ごみの減量・資源化の推進を図ります。